

別紙 1

論文審査の要旨

報告番号	㊦・乙 第 3002 号	氏 名	油井 千旦
論文審査担当者	主査 瀧本雅文 教授 副査 土岐 彰 教授 副査 水谷 徹 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>白内障手術は白内障により低下した視力を向上させるのに有用な手術であり、後期高齢者の割合の増加に伴い、白内障手術を受ける後期高齢者の割合も増加している。白内障手術後の QOL の向上についてはこれまでも検討がされているが、後期高齢者に限定した検討はまだされていない。今回油井らは後期高齢者の白内障手術に対し術前後の視覚に関連した健康関連 QOL を測定し、比較検討を行った。75 歳以上の後期高齢者 50 名に対し、The 25-Item National Eye Institute Visual Function Questionnaire (NEI VFQ-25) 日本語版を用いて手術前後の QOL を測定した。後期高齢者では白内障手術により VFQ の総合得点は有意に上昇し、見え方がよくなることで、普段の行動がより簡便になり、心の健康が保たれることが分かった。しかし自立、役割機能の面では有意な上昇はなく、視覚以外の面でも制限があることが明らかとなった。</p> <p>本研究により白内障手術を施行することにより、後期高齢者の ADL、QOL の改善が期待できると考えられた。</p> <p>以上より本論文は新しい知見を得ており、学術上価値のあるものと考えられる。</p> <p>論文題名：後期高齢者の白内障手術による視覚に関連した健康関連 QOL の検討</p> <p>掲載雑誌名：日本白内障屈折矯正手術学会雑誌 第 31 巻 第 4 号 606-611 頁 2017 年</p>			

(主査が記載、500 字以内)